

(別添4)

【邑南町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

我が国が目指すべき Society 5.0 の未来社会像「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人一人が多様な幸せ (well-being) を実現できる社会」を目指すため、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育成することが必要とされている。また、令和の学校教育は、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という観点で、教育課程や教育活動の改善・充実を図っている。

邑南町では、未来を生きる邑南の子どもたちのために、一人一台端末等を授業で日常的に活用し、身に付けた情報活用能力を適切に学びに生かしながら、「わかった」をもたらす個別最適な学びと「深まった」のための協働的な学びを一体的に充実する姿を目指している。

これらの目標に向け、今まで取り組んできた「学び合いの学習」を引き続き推進しながら、ICT 機器を学ぶための「文房具」として使うことで、「個別最適な学び」で学んだことや学び方を、「協働的な学び」でさらに深めていく、深まったことをさらに個別最適な学びで追求することができるよう往還的な思考で授業を創ることに取り組む必要がある。

それらを通して、自ら学びを調整する力（自己調整力）や学びをつかみ取る力（自己決定力）を育み、すべての子どもたちを自立した学習者に育てることを目標としている。

2. GIGA 第1期の総括

邑南町では、文部科学省の「教育の ICT 化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022）」をもとに、ICT 環境の整備を着実にやってきた。総合経済対策として GIGA スクール構想が掲げられ、財政支援のもと「高速大容量のネットワーク環境」と「児童生徒1人1台端末」の全ての小中学校（小学校8校、中学校3校 合計11校）における整備を達成することができた。

GIGA スクールによる「1人1台端末」が配置され、「個別最適な学びと協働的な学び」の両輪として学習を進めてきた。「個別最適な学び」では、個に応じた指導を学習者の視点で捉え、一定の目標を全ての子どもが達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める「指導の個別化」と異なる目標に向けて、学習を深め、広げる「学習の個性化」を中核としてきた。また、「協働的な学び」では、「個別最適な学び」の成果を生かし、探究的な学習や体験活動などを通じ、「同じ意見でも大切にしていることが違うことがあるんだな」など、異なる考え方が組み合わせたり、考えが深化し、よりよい学びを生み出すことができるように推進してきた。邑南町で重点の柱としている「学び合い」の学習は、まさに協働的な学びと一致するものである。

より具体的な目指す姿として、一人一台端末等を活用して、以下の授業スタイルを目指している。

(1) 学習に必要な情報を調べている

- (2) 考えを共有したり比べたりしている
- (3) 考えをまとめ、発表・表現している
- (4) 学習記録を活用しながら、自分のペースや学び方に合わせて学習を進めている
- (5) 情報活用の土台となる知識や態度を身に付けている。

令和6年4月に実施された「全国学力・学習状況調査～質問紙調査」の結果においては、「授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか（週 1 回以上と回答した割合）」という質問では、小学校や中学校ともに全国平均と同等であった。「学習の中で P C ・タブレットなどの ICT 機器を活用することは、友達と考えを共有したり、比べたりしやすくなると思いますか」という質問では、小学校や中学校ともに全国平均を下回った。

ICT 機器の活用は進んできている面もあるが、学校規模における教職員による活用にかかわる意識の差や学校間による活用の差が見られた。情報手段の一つである一人一台端末活用の特性や強みを知り、学習に生かしていくことができるよう、授業において日常的に活用していくことが求められていることが分かった。

そこで、令和 6 年度から ICT 支援員 2 名を雇用し、小学校 8 校、中学校 3 校を定期訪問し、学校の教育的ニーズを把握して、それに対する指導・助言を行っているところである。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1. 1 人 1 台端末の積極的活用

毎年度、教員一人一人が ICT 活用の目的を理解し、ICT 活用指導力を向上できるよう、計画的・定期的に研修を実施する。

《教職員対象の研修の場》

転入職員対象情報教育研修会	町内導入のソフトウェア研修 (講師：町情報教育担当職員)
ICT 推進研修会（年間 3 回～町教育研究会との共催）	デジタルシティズンシップ研修会（含～情報モラル） 授業改善のため授業支援ソフトウェア研修（スカイメニ ュー等）（講師 外部講師 ICT 支援員）
管理職対象 情報教育研修会 （校長会、教頭会等）	情報化推進について、管理職研修 (講師：教育委員会担当 ICT 支援員)

※ICT 支援員 2 名による学校訪問の継続

※研修の機会を計画的に設定し、各校の ICT 利活用について情報共有・共通理解を図りながら課題を確認し、外部講師の支援を受けながら、ICT 活用指導力の向上を目指す。

2. 個別最適化・協働的な学びの充実

《文部科学省（2019）「教育の情報化に関する手引き」より》※「A 一斉学習」は省略。

B 個別学習	B1 個に応じた学習 一人一人の習熟の程度 に応じた学習 ・タブレットドリル	C 協働学習	C1 発表や話し合い グループや学級全体 での発表、話し合い ・学習支援ソフトウェア

B2 調査活動 インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録 ・学習支援ソフトウェア	B3 思考を深める学習 シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習 ・学習支援ソフトウェア	C2 協働での意見整理 複数の意見、考えを議論して整理 ・学習支援ソフトウェア	C3 協働制作 グループでの分担、協働による制作 ・学習支援ソフトウェア
B4 表現・制作 ソフト等を用いた資料、作品の制作 ・学習支援ソフト	B5 家庭学習 情報端末の持ち帰りによる家庭学習	C4 学校の壁を越えた学習 遠隔地や学校等との交流授業 ※Web 会議ツール	

上記の学習を推進していくことで、下記の力の育成を目指していく。

○個別最適化の学び～自分に合った学び方や進め方で自分の学びを探究する。

1. 学習の効率化: 児童生徒一人ひとりの進度や興味に応じた学習を進めることで、学習効果を向上させる。
2. 自己調整能力の育成: 児童生徒が自ら学習状況を把握し、学び方を調整する力を養っていく。
3. 多様性への対応: 特別な支援を必要とする生徒にも適切な学びの機会を提供していく。

○協働的な学び～対話を通して「納得解」「他者理解」「社会性」を育成する。

1. コミュニケーション能力の向上: 児童生徒同士が意見交換や共同作業を行うことで、対話力や協調性を育む。
2. 深い学び: ペアやグループでの探究活動を通じて、より深い理解や創造的なアイデアを育む。
3. 社会性の育成: 他者と協力する経験を通じて、社会で必要とされるスキルを身につけることができるようにする。

個別最適化された指導を行うための準備や対応に時間がかかり、教員の負担が増加したり、過度に個別学習が進むことで、児童生徒間の交流が減少することが考えられる。OJTを進める中で研修時間を確保するとともに、個別学習と協働的な学びとのバランスを考えていく必要がある。

個別最適化と協働的な学びを効果的に組み合わせることが、今後の教育の鍵となる。自分で学びの方向性を見だし、何が必要なのか見極め、決定することで、主体的に取り組む態度を育成していく。

3. 学びの保障

児童生徒の特性に応じたきめ細かな対応として、ICT の活用や、対面指導・遠隔・オンライン教育とのハイブリット化による指導の充実に努める。

不登校児童生徒	希望する不登校児童生徒に対して、ICT 端末を使い、学校とつながる取組や自宅学習の促進を行い、学習の機会を確保していく。
日本語指導が必要な児童生徒	ICT を活用した教材である音声教材や学習者用デジタル教科書は、音声情報を入手できる機能等を持つことから、外国人児童生徒等への指導・支援に活用することで、学びの質の向上につなげていく。
特別な支援を必要とする児童生徒への支援	困難さに応じた指導方法の工夫（含～デジタル教材やデジタル教具）を行うことで、個に応じた指導の効果をより高めることを実践していく。